

# Careline

KYOUWAKAI Press [ケアライン]



皿倉山からの夜景



冬号

## 診療報酬改定その後・・・ 回復期病棟の動向

巻頭言：2040年問題に向け・・・

特集：院長インタビュー 平成30年度 報酬改定を振り返る

レポート：地域と共に 当院へのアクセス ほか

早いもので師走の頃を迎えました。本年、伸寿苑竣工と同時に整備された施設内の樹木も葉を落とし冬支度となりました。さて先日、ある講演会に参加しました。「地域包括ケアを考える」というものでしたが、その中で今後の日本の人口についてお話がありました。

我が国は明治維新の頃、人口3千500万人だったそうです。それが明治、大正、昭和と増加し2008年（平成20年）には1億2千800万人とピークを迎えましたが、ここに来て急速な人口減少が始まっています。100年後、私達の曾孫世代には明治維新に近づく4千万人ま

で減少するとのこと。あらゆるものが右肩上がりの時代しか知らない私達にとってこれからの社会がどのように変わっていくのか想像の域を超えています。

さて、時代は超高齢化社会を迎え、これまで話題となっていた2025年問題が

## 2040年問題に向け・・・

2040年問題に移行しています。いわゆる団塊の世代が90才を迎える頃に国の対策は視点が向けられているのです。

そうした中、今年4月に報酬改定が行われました。今後の医療や介護の動きを見る上で大変重要な改定となったわけですが、

全てはこれから迎える超高齢化、人口減少時代にむけた対策に結びつくものとなっています。

今回のケアラインではそうした改定について梅津院長にインタビューを行いました。話題は共和会が抱える今後の課題、さらには地域社会への検討となりました。来る2040年問題に法人としても目を向けていかねばならない時代

が来たのだと思います。

ご一読いただければ幸いです。

医療法人共和会  
小倉リハビリテーション病院 連携広報部長  
井上 崇



